

## 防災計画について

Q 3・11以降、区単位で防災組織整備に取り組んできています。しかし末端の住民まで情報は行きわたっていません。町内単位くらいでない地域が發揮できないのではないのでしょうか。地域の高齢者や、障がいのあるかたの把握といった配慮のある防災組織づくりが必要ではないのでしょうか。

A 3・11時は、隣近所の助け合いが命の分岐点になりました。分館単位、町内単位での取り組みも進んでいるようです。町が出向いて実際的な取り組みなどの話し合いをもちたいと考えています。高齢者や見守りが必要なかたは社協、民生委員と連携し、本人の了解を得て要援護者のリストを作成しています。

## コミュニティセンターについて

Q 「コミュニティ」という用語の意味はなんなのでしょうか。

A コミュニティは、地域、共同体の意味です。コミュニティセンターは地区センターと考えてください。

Q 地区の運営主体とはどういうものですか。具体的なイメージを示してほしいです。また、指定管理者との関係はどうなりますか。

A 運営主体は、地区の中心となつて地域づくりをしていただけるかたがたと考えています。また、町の施設であるため、地区の運営主体を指定管理者とし、センターの運営を委託するという形を想定しています。

A 3・11時は、団員の死亡例がありました。現在の消防団条例の中に、身を挺して職

務にあたるとの表現もあり、今の時代にそぐわない部分もあります。まずは自分の命を守り、住民の安全・安心に取り組むよう位置づけます。

Q 地区公民館は平成17年度に今の制度になったが、現状の公民館運営の総括はどのように行われていますか。

A 平成17年度から今の体制となり、生涯学習、社会教育の分野を担ってもらっています。地域の人口の減少や地域課題が増えていく中で、今後は、地域のかたがたが地域のために何が必要か自ら考え、実践していくことを行政が支援していくという仕組みを作っています。

## 町のさまざまなことについて

Q 町道の維持管理について。ひどい所もあります。維持管理の基本的な考えを教えてください。修繕の判断基準はどうなっていますか。

A 町道の全長が約395歳あり、運転手2名体制で、常時維持作業（砂利敷き、穴埋め、草刈り、パトロール）を行っています。場所の選定は、著しく傷んでいる箇所を優先しています。また、今回のまちづくりミーティングで伺った修繕要望の集約作業を始め

ているところです。

Q 各種後援会、赤十字の寄付などについて、生活弱者からもらわないようにできませんか。平等割ではなく、払える人からは多くもらうようにできませんか。

A 各後援会費などについては、地区ごと、団体ごとの歴史的背景があります。経済的に大変な方からはもらわないところもあるとうかがっています。

Q 少子化対策について、赤ちゃんが生まれてからの事業ばかりが目立つが、結婚しないと子どもは生まれません。若者が白鷹町に住むような具体的な考えが見えてきませんか。

A 婚活については、町内の複数の団体が出会いの場、イベントを設定しています。町でも、結婚相談員を委嘱し、取り組んでいる状況です。今後、出会いの場を多く作って行きます。県においても、「やまがた結婚サポートセンター」を設置しています。1

つの町だけでは解決できない問題であり、置賜3市5町でも取り組んでいる状況です。

Q きれいな人工芝のグラウンドができるのに悪臭が残念です。事業者と地域住民だけでは進みません。対策をお願いします。近所の住民は苦労しています。

A 悪臭対策については、話し合いを進めています。対応できるものについては対応してもらっています。なお、事業者に改善について文書で指導しています。

この他にもたくさんのご意見をいただきました。まとめ、各地区公民館に配置していますので、ご覧ください。また、町のホームページでもご覧いただけます。

### 問い合わせ

総務課 情報係

85-6121